

JIMGAnews

第26号

JIMGA 本部 平成27年 賀詞交歓会を開催

1月14日、東京會館でJIMGA本部平成27年賀詞交歓会を開催しました。経済産業省、厚生労働省、高圧ガス保安協会、日本医療ガス学会など各種関連団体から来賓を迎え、マスコミ関係者を含めた多くの方が参加し、盛大に行われました。

はじめに間会長が挨拶に立ち、「我々の産業ではまだ景気回復の実感はなく、増税の反動もありピーク時と比較して回復に至るにはまだまだ時間がかかる」との見通しを示し、「電力多消費産業として、電力料金値上げの影響などによりさらなる負担増を覚悟しなければならず、今後も関係官庁への陳情や広報活動を継続する」としたうえで、「当協会の最大のテーマは安全、安心の確立。それがあってはじめてJIMGAの存在価値が確認できる」として保安活動への意気込みを述べました。



間会長挨拶

続いて経済産業省製造産業局谷審議官が挨拶され、「日本は産業ガス、医療ガスなくして1日たりとも成り立たない」とその重要性を強調し、「電力料金の高騰に対しては、補助や税制等において引き続き全力で取り組みたい」と述べました。



会場の様子

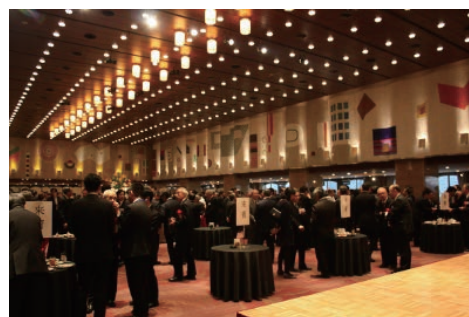
次に厚生労働省二川医政局長が挨拶され、「今後高まる医療・介護の需要に対応し、医療体制の充実を図るため、昨年の通常国会で医療介護総合確保推進法を成立させていただいた」と報告し、「今後も医療用ガスの安全かつ安定的な供給にご協力いただきたい」と述べました。

さらに高圧ガス保安協会の作田会長が挨拶され、「どんな些細な事故でも、それが増大すればやがて深刻な大事故に発展する」として「もともと危険物である高圧ガスを扱う事業者は、プロとして現場での取り扱いには緊張感を持って取り組んでいただきたい」と訴えました。

この後、今井副会長が「今回の出席者数は昨年比で1割増し。慎重ではあるが今後の景気回復を楽観視する声が聞かれるなか、頑張っていきたい」と乾杯の挨拶をし、祝宴に移りました。最後は、鈴木副会長の中締めで盛況裡に閉会しました。

会長、副会長、来賓の挨拶は、3月発行の「産業ガスレポート春号」で詳しくご紹介する予定です。

(広報委員会事務局・石原智子)



会場の様子

会員紹介 ー山陰酸素工業株式会社ー



本社内屋 外観

地域に根ざして

皆様は「山陰地方」と聞いて、どのようなことを思い浮かべるでしょうか。山陰地方は、美しい海岸線が続く日本海や中国地方最高峰の大山(だいせん)、世界ジオパークの鳥取砂丘をはじめとする大自然に加え、出雲大社、世界遺産の石見銀山、たたら製鉄に代表される悠久の歴史、また出雲そば、松葉ガニ、仁多米等の特産品を有する、豊かで魅力あふれる地域です。

山陰の人々はものづくりに対する意識、学ぶ姿勢が高く、特に素材、部材の分野で高い評価を受けております。特殊鋼、製紙、電機等の大手メーカーが主力生産拠点を構え、近年、多岐にわたる分野の中小企業の進出があるのは、その証左と言えるでしょう。

当社は、1946年9月に酸素の製造販売を目的として創立されて以来、60余年にわたり一般高圧ガス、LPガス、LNGをはじめとする各種ガスおよび関連器材の販売を行ってきました。素材、部材を含む様々な産業をサポートするのがガス供給業者の役割であり、安全かつ安定したガス供給を継続することが責務であると考えております。出雲支店においてはLPガスの中核充填所の指定を受け、災害時におけるエネルギー供給の重要な役割も担っております。

現在、当社を中心として、エネルギーグループ、食品グループ、自動車グループの3グループからなる12社2組合の「山陰酸素グループ」を構成しております。「わたしたちは、総合力で地域を支え、生活(くらし)に豊かさを提供し、輝きのある未来に向かって共に前進します。」というグループ理念の下、一丸となって地域の発展のために微力ながら尽力しております。

当社の設備

2012年6月、当社の一般高圧ガス製造拠点である安来ガスセンターを新築移転しました。ISO 9001認証取得事業所として、改正薬事法(GMP)に対応した医療用酸素自動充填ラインをはじめ、工業用酸素、窒素、アルゴン、炭酸、混合ガス(アルゴン+炭酸)、圧縮空気の最新の充填設備を保有しております。

建設にあたりLPガス発電機を備え、災害時においても医療用酸素の充填ができる体制を基本に、機械設備・配管設備等は自社の工事部門で設計施工を行いました。ラインの自動化・充填と分析のリンクにより、製品品質の確保、作業の効率化、製品のトレーサビリティの確保を図っております。



安来ガスセンター

JIMGAとの関わり

現在、中国地域本部におきまして、産業ガス・医療ガス両部門の副本部長を務めております。行政との関わりでは、「災害時における医療ガス等の確保・供給等に関する協定書」に基づき、鳥取県ではJIMGA山陰支部として災害時訓練に参加する等の活動を行っております。

また「安心」・「安全」確保のため、消費先での当社社員による保安講習の開催や、長期停滞容器の撲滅をはじめとする高圧ガス保安確保への取り組みを積極的に進めることで、地域に根ざし更に信頼される企業を目指してまいります。(山陰酸素工業株式会社 代表取締役社長・並河 勉)

水素インフラに係わる規制適正化活動の状況について

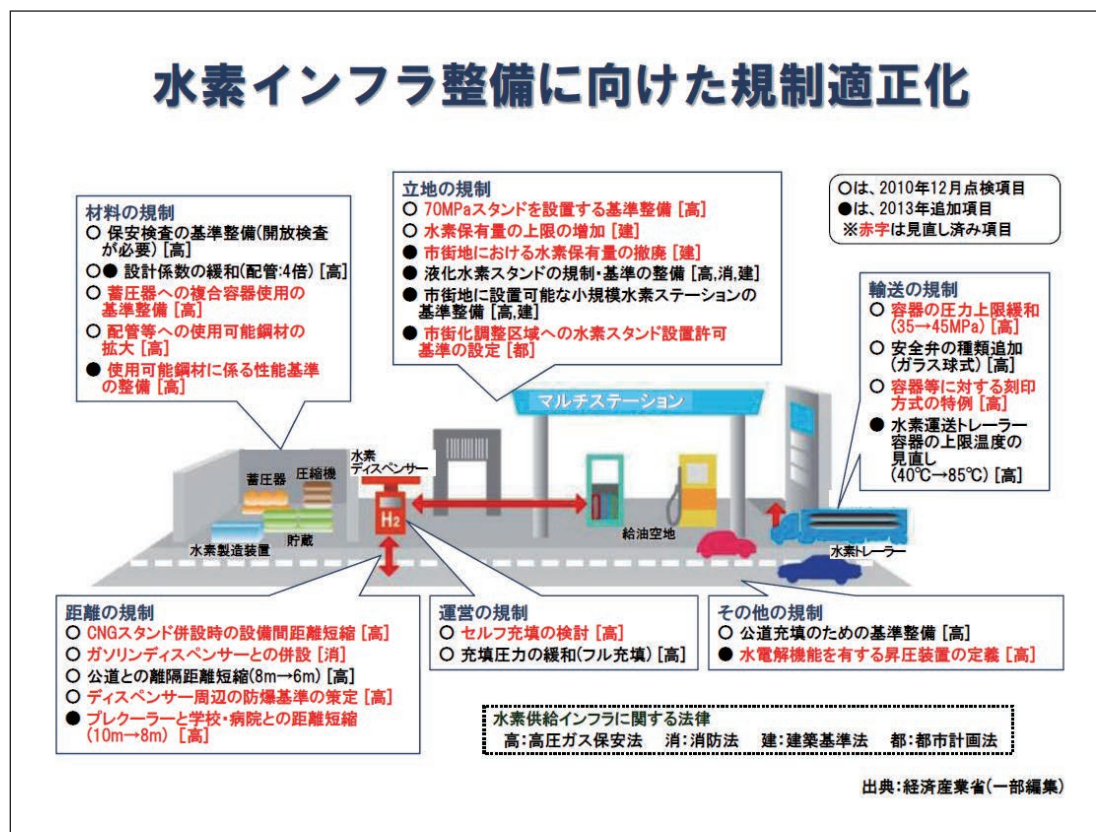
燃料電池や水素エネルギーを生活の中で使えるようにしていくため、日本国内ではかねてより各種規制緩和・基準整備が検討されてきました。水素インフラ関連については、高圧ガス保安法の中で平成17年3月31日に整備された、40MPa級圧縮水素スタンドに関する技術基準が最初です。これは平成15年度からのNEDO「水素安全利用等基盤技術開発」にて、当時の日本産業ガス協会(JIGA)も含む民間事業者等が主体となり作成した技術基準案・例示基準案が基礎となっています。



小規模水素スタンド設置例

その後平成22年12月には、圧力容器の設計基準、使用可能鋼材の制約などの高圧ガス保安法の規制を、欧米で安全性が認められている水準まで適正化を図るため、経済産業省は国土交通省、消防庁とともに規制の再点検が必要な16項目の工程表を公表し、さらに平成24年6月14日閣議決定された規制改革実施計画に基づき、9項目が追加設定されました。

民間サイドでは、規制見直しに必要な安全性データの取得等のため、平成25年度には、国家プロジェクトの一環としてNEDO「水素利用技術研究開発事業／水素ステーションの設置・運用等における規制の適正化に関する研究開発」が立ち上がっており、JIMGAは一般財団



規制適正化イメージ

法人石油エネルギー技術センター等と連名で当プロジェクトを受託し、このうちの「液体水素貯蔵・水素スタンドの規制・基準の整備に関する検討」、「2種製造設備に相当する水素供給設備の技術基準の整備に関する検討」の2テーマを担当しています。

この「液体水素貯蔵・水素スタンドの規制・基準の整備に関する検討」では、液化水素を原料とし、圧縮機で昇圧して水素を燃料電池車（FCV）に充填するタイプの圧縮水素スタンドに関する技術基準案を取りまとめました。結果として、平成26年11月20付で省令・例示基準が改正・施行され、高圧ガス保安法における基準整備が完了しました。引き続き建築基準法に関し同年12月26日付で市街地に設置する基準整備が行われ、現在は、ガソリンスタンド併設に関し、消防庁にて消防法関連の検討が行われています。

一方、「2種製造設備に相当する水素供給設備の技術基準の整備に関する検討」は、FCV普及初期に有用な1日の処理量が30m³未満である小規模な水素スタンドの基準等の整備が目標です。これまでJIMGAにて検討してきた基準策定ロジックに則り技術基準案を作成し、現在この基準案が規制当局サイドで審議されています。また、新しい技術である差圧式水電解装置について、小規模水素スタンドに設置される場合の安全性の評価を実施しており、その結果を業界自主基準とすべく取り組んでいます。

FCVの一般販売が開始され、いよいよ水素時代の幕開けといわれています。FCV・水素エネルギーの今後ますますの普及拡大を図るには、継続的な規制適正化活動が必要と考え、産業ガス業界としてもその一翼を担うとともに、水素の安全利用の啓発活動にも率先して取り組んでいきます。



液体水素スタンドイメージ

(水素スタンドプロジェクト・小川 敬)

東海地域本部の事務所移転について

東海地域本部事務所は下記の通り移転し、2月2日より新事務所にて業務を開始しました。事務所移転を機に一層精励する所存ですので、倍旧のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

[新住所・連絡先]

〒450-0003 名古屋市中村区名駅南1-16-30
東海ビルディング8階

TEL : 052-551-0706 FAX : 052-551-0707

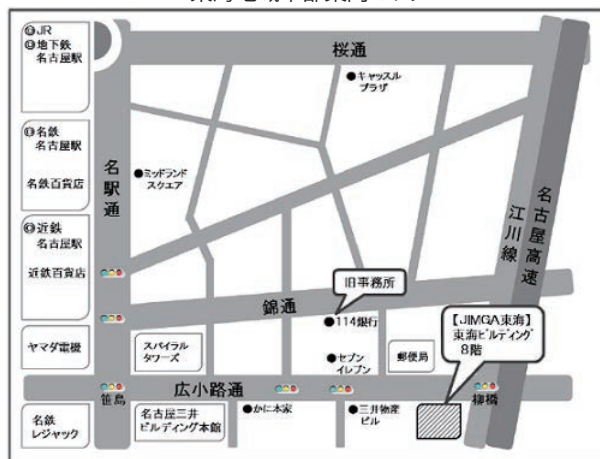
(今回の移転に伴う電話番号、FAX番号の変更はありません)



正面エントランスと事務所ビル外観



東海地域本部案内マップ



(旧事務所より徒歩5分)

産業ガス教育用教材 e-ラーニングを活用しませんか

JIMGAでは、産業ガス教育用教材として、e-ラーニングをウェブサイトアップしています。メニューは4種類で、JIMGA会員でなくても誰でも自由にアクセスできます。各教材とも講義形式で、動画・事事故例・理解度テストを盛り込んだものになっており、これまでに多くの方々にご活用いただいています。(H23.9~H27.1 累計アクセス数(4テーマ合計) = 15,910件)

＜e-ラーニングのテーマ＞

1. 【高圧ガスの安全基礎知識】 (約40分)
2. 【水素の安全な取扱い】 (約20分)
3. 【炭酸ガスの安全な取扱い】 (約20分)
4. 【酸素の安全な取扱い】 (約20分)

＜e-ラーニングへのアクセス方法＞



是非、ご利用ください。(教育・研修WG)